《日経 225 関連用語集》

1. 基本的な用語

- * 株価指数先物取引：株価指数を対象とした先物取引で、株価指数を将来の一定の日に今の時点で取り決めた値段で取引することを約束する契約のこと。
代表的なものに日経 225 先物取引・日経 225mini・TOPIX 先物取引がある。

- * 証拠金：SPAN®（スパン：保有する建玉のリスクの大きさに応じて証拠金を計算する制度）に基づいて証券会社が算出し、その金額以上の差し入れを顧客に求めることになっている。
※SPAN®とはシカゴ・マーカンタイル取引所（CME）が 1988 年に開発したりスクベースの証拠金計算システムで、世界主要各国の先物・オプション取引所で採用されているグローバル・スタンダード のシステム。

- * 委託手数料：顧客が証券会社に売買を委託し、それが成立した際にその対価として払う手数料のこと。 ※平成 11 年 10 月 1 日から委託手数料は自由化された。

- * 差金決済：差金決済とは、現物のやり取りを行うことなく、買いから始めた場合には転売、売りから始めた場合には買い戻しという反対売買をして、価格の変動から生じた差額を享受する決済方法。

- * 値洗い：値洗いとは、先物取引の建玉について日々評価替えを行うこと。値洗いを行うことにより、相場の変動に際しても決済の履行を確実にすることができる。

- * リスク：相場変動（価格変動）によって損失が生じる危険のこと。

- * SQ：株価指数先物取引や株価指数オプション取引の最終決済を行うための価格のこと。満期日前に反対売買による決済を行わない時の清算価格として使用される。特別清算指数ともいう。

- * 限月：日経 225 も先物取引なので決済の期日が決まっている。3 月・6 月・9 月・12 月の第 2 金曜日が決済の満期日となっており、これらの月を限月といい、この期日のことを SQ 日という。このときに取引していれば自動的に反対売買を行わなくても決済となる。例えば 3 月が満期日の場合「3 月限（さんがつぎり）」などと呼ぶ。また市場では常に 5 つの限月が並行して取引されている。例えば 2010 年 4 月に取引されているのは、6 月限・9 月限・12 月限・2011 年 3 月限・2011 年 6 月限の 5 つである。

2. 取引をする際に知っておきたい用語

- * ザラ場 : 取引所での寄付きから大引けまでの間、売り手と買い手が対互いに相手を見つけ、条件が合うごとに個別的に売買を成立させる取引。また、その値段。
- * 寄付き : 売買立会が開始され、最初の売買のこと。そのときについた値段を寄付き（または寄付き値）という。
- * 終値 : 終値とは、定められた期間内において最後に決められた値段。
- * 玉(ぎょく) : 決済せずに残っている取引を指す。建玉（たてぎょく）またはポジションともいう。
- * 決済 : 建玉（ポジション）を買い戻しまたは売り戻しを行い、取引を終了すること。
- * 約定 : 市場で成立した売買のこと、約定値段はその価格を意味する。
- * 不出来 : 売買注文を出したが、その注文が成立しないこと。
- * 順張り : 相場のトレンド（流れ）に沿って売買すること。相場が上昇しているときに買い、値下がりにしているときに売ること。⇔逆張り
- * 逆張り : 相場が上昇している時に売り、下降している時に買うこと。⇔順張り
- * 両建(りょうだて) : 両建とは、同一の商品の売りポジションを買いポジションを同時に持つこと。
- * 押し目買い : 相場が下がることを「押し」といい、押し目買いとは上昇傾向にある相場が一時的に下がったところを狙って買うこと。⇔戻り売り
- * 戻り売り : 下げ相場するとき、一時的に高くなったのを見計らって売ること。⇔押し目買い
- * 難平(なんびん) : 困難を平均するという意から転じて、相場の上下に応じて売買の値段を平均する売買方法。買って相場が下落したら更に買って平均の買値を下げ、売って相場が上昇したら売り増しし、平均の売値を上げる。

- *利食い : 利が乗った買い建て玉を転売（または売り玉を買戻し）し、利益を確定させるために決済を行うこと。
- *損切り : 売り、または買いポジションが評価損となっている状態で決済すること。
(⇔利食い)
※早めの損切りは自分の資産を守るためのものとして重要な役割を果たすものとなっている。
- *手仕舞い : 取引において反対売買を行うこと。
- *板 : 銘柄別の売買の状況を記録したもの。入力された注文は売り買い別、値段別に整理、記録されている。
- *出来高 : 取引所で各商品の取引が成立した数量のこと。売り 100 枚、買い 100 枚の場合、売買高は 200 枚となるが、出来高は 100 枚となる。
- *トレンド : 相場の方向を示す言葉。上昇トレンド・下降トレンド・横ばいトレンドがある。
- *気配 : 指値注文がどのように入っているのか表す状況のこと。売り注文を出すといくら売れそうか、買い注文で出すといくらで買えそうか売買の目安になる値段を示す。
- *もみあい : 一定のレンジ（幅）で、小幅な値動きを繰り返すこと。
- *堅調 : 上昇基調にある状況。(⇔軟調：価格があまり上がらず、下落基調である状態。)
- *買い一巡 : 買い一巡とは、価格が大きく上昇し続けているとき、買い注文が一通り出揃い注文が出なくなった状態。(⇔売り一巡)
- *売り一巡 : 価格が大きく下落し、売り注文が一通り出揃い注文が出なくなった状態。(⇔買い一巡)
- *天井 : 相場がそれ以上高くないところ、またはその状態。(⇔底)

- *サーキットブレーカー : 相場が大きく変動した際にこれを安定させるべく発動される措置。値幅制限や取引停止などがこれにあたる。

- *値幅制限 : 取引所は行き過ぎた暴騰（急な上昇）・暴落（急な下落）が起こることを防ぐために、1日の値動きを制限しているこの措置を値幅制限といい、値段の動ける範囲を制限値幅という。

3. チャート分析用語

- *ローソク足 : ローソク足という名前は、ある期間の「始値」「高値」「安値」「終値」の4つの値段をもとにローソクそっくりの形で表すことからきている。
- *陽線 : チャートの表記で始値より終値が高いローソク足のこと。通常は白で表す。
- *陰線 : チャートの表記で始値より終値が安い場合のローソク足のこと。通常は黒で表す。
- *窓 : チャートで前日の値段から離れた値段で寄り付き、前日の価格との間に空白を作った場合、その部分を窓と呼ぶ。GAP（ギャップ）とも呼ばれる。
- *雲 : チャート分析手法の一目均衡表の2本の先行スパンの間の価格帯のこと。
- *一目均衡表 : 一目均衡表は一目山人が開発したテクニカル指標。特徴として時間を重視した分析方法となっている。
- *ボリンジャーバンド : テクニカル分析指標のひとつ。移動平均線に対して一定の乖離をもつ伴線上下に引いて、バンドを表示したテクニカル分析指標。その動きにより相場を分析する。シグマとは標準偏差のこと。移動平均線の対象機関の標準偏差（シグマ）算出し、一定倍率の乖離を持たせたものがボリンジャーバンドといわれる。
- *移動平均線 : 過去の一定期間に決まった価格の平均値を計算してグラフ化したもの。
- *上値抵抗線 : 売り圧力が強く。上昇を抑えられる水準。チャート上で2つ以上の過去の高値を結んだ線が意識される。レジスタンスともいう。
- *レンジブレイクアウト : それまで作り上げたレンジ相場（一定の価格帯で上下している相場状況）がどちらかの方向に抜けてくること。
- *ゴールドンクロス : 移動平均線の短期戦（例：13週線）と長期戦（例：26週）の動きに注目し、長期戦が上場局面または横ばいの状態にあるとき、短期戦が長期戦の下から上へ突き抜けることを、ゴールドンクロスと呼ぶ。ゴールドンクロスは一般的には買いサインといわれている。（⇔デッドクロス）
- *デッドクロス : 移動平均線の短期戦と長期戦の動きに注目し、長期戦が下降局面または横ばいの状態にあるとき、短期戦が長期戦の上から下へ突き抜けることをデッドクロスと呼ぶ。一般的に売り場といわれている。